

【K 耐久部門 車両規則】 Ver.1.01

- ・本規則によって許されていない全ての変更および調整仕上げは禁止される。
- ・「ノーマルクラス」に許される改造範囲を超える場合は「クローズドクラス」に編入される。「クローズドクラス」に許される改造範囲を超える場合は、「オープンクラス」に編入される。
オープンクラスに許される改造範囲を超える改造は認められない。
- ・各クラスともナンバーの有無は問わないが、ナンバー付きの車両で自走にて来場する場合は、道路運送車両法に合致した状態で走行して来ること。
- ・NA車で「2019年 東北660選手権レギュレーション」で参加する車両は、そのレギュレーションに完全に合致していること(タイヤと、一部の安全規定は除く)。
「2019年 東北660選手権レギュレーション」と、「当レギュレーション」の、良いところ取りをすることは出来ない。
- ・昨年からの変更点は赤色で記載してある。

1) エンジン関係

	【オープンクラス】 OP	【クローズドクラス】 NC、TC	【ノーマルクラス】 NN
エンジン本体	車両と同一メーカーの、軽自動車のエンジンであれば別車種のエンジンを搭載できる。	メーカー出荷時にその車両と同一型式の車に搭載されているエンジンに限る。 (例: 同じE07Aエンジンでも、トゥデイ(JA4)に、ビート(PP1)のエンジンを搭載することは許されない) また、リアエンジンの場合、エンジンカバーの取り外しは禁止される。	新車時にその車両に搭載されていたエンジンから変更することは原則許されない。 ただし転倒やクラッシュなどで、同一型式車両で別仕様エンジンのホワイトボディに交換する場合の扱いについては、“ホワイトボディ”の項に従うこと。また、リアエンジンの場合、純正エンジンカバーの変更、取り外しは禁止される。
気筒容積	3mm以内のボアアップは許される。 ストロークアップは許されない。	変更は許されない。	←クローズドクラスに同じ
シリンダーヘッド	自由	変更は許されない。	←クローズドクラスに同じ
バルブスプリング	自由	自動車メーカーの定めた数と取り付け部を変更することなく取り付けられることを条件に、他のものと変更することができる。	変更は許されない
バルブおよびバルブシート	自由	同一型式車両に設定されている純正部品への変更は許される。	変更は許されない
カムシャフト	自由。 ただしカムシャフトの位置、個数および駆動方式は変更出来ない。 材質の変更は禁止される。	同一型式車両に設定されている純正部品への変更は許される。	変更は許されない
ヘッドガスケット	ヘッドガスケットの変更は許される	←オープンクラスに同じ	変更は許されない。
シリンダーブロック	改造は自由。	変更は許されない。	←クローズドクラスに同じ
ピストンおよびコンロッド	自由	ピストンおよびコンロッドはバランス調整のみ許されるが、それぞれ1個が未加工品であること。	変更ならびにバランス調整は許されない。
クランク	自由。ただしチタン合金の使用は許されない。	変更は許されない。	←クローズドクラスに同じ
フライホイール	自由。	同一型式車両に設定されている純正部品への変更は許され	変更は許されない。

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

	ただし材質はスチールに限定される。	る。	
オイルパン	変更および改造は自由。	オイルパンの外観変更は許されない。(→次ページへ続く) ただしオイルの片寄り防止、および温度センサー取付けのための追加加工は許される。 また、エンジンへの取り付け位置および取り付け方法・作動原理を変えなければ、オイルストレーナーの位置を変更することも許される。	←クローズドクラスに同じ
オイルポンプ	変更が許される。	シムおよびスペーサーによる油圧の調整機構に限り変更が許される。	←クローズドクラスに同じ
オイルフィルター	自由。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
エンジンオイルクーラー	オイルクーラーの取り付けおよび変更は許される。 元のオイルクーラーを取り外すことも許される。 ただし車体外部への取付けは認められない。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
サーモスタット	自由	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ウォーターラジエターおよびホース	自由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車体側取付部の変更がなければ、容量およびラジエターキャップ圧力の変更が許される。 ・ ホース類の変更は許される。 	←クローズドクラスに同じ
クーリングファン／ファンシュラウド	取り外しおよび変更が許される。クーリングファンの変更に伴うファンシュラウドの最小限の変更は許される。ファンスイッチの加工、変更、追加等の改造が認められる。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
エアクリーナー	自由	エアフィルターはその車両用の純正交換タイプの物に限り交換が許され、取り付け位置の変更や取り外しは許されない。 またフィルターボックスは当初のままでなければならない。 フィルターボックスより前部に位置する、ボルト・バンド等で装着されたパイプ・ダクト(吸気音防止レゾネーターやブローバイガス循環ホース等)を取り外すことが出来る。ただし、取り外した後の穴は完全に塞がなくてはならない。	←クローズドクラスに同じ
キャブレターおよびインジェクションシステム(EUC含む)	自由	キャブレターをインジェクターに変更することは許されない。その逆も同様とする。 ① キャブレター <ul style="list-style-type: none"> ・キャブレターはベンチュリーの直径あるいはスロツトル開口部を変更することは出来ない。 ・キャブレターの部品は、流入する空気の量に影響が無ければ、改造または交換することが許される。 ②インジェクション <ul style="list-style-type: none"> ・インジェクションシステムは当初の形式が保持され、かつ機能していなければならない。 ・インジェクション装置の部品(エンジンコントロールユニット、 	変更ならびに改造は許されない。

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

		インジェクター、コネクタ、プレッシャーレギュレーター、エアフロメーター等を含む)は、流入する空気の量に影響がなければ、改造または変更することが許される。	
吸気系統	自由	<ul style="list-style-type: none"> 吸気マニホールドは国内向けの当初の部品と同一な純正部品との交換が許される。 ただしポート内面に段付き修正を行なう場合、取付面より5mm奥行の範囲に限りシリンダーヘッド側を含み加工が許される。 取り付け位置について、取付穴の修正によりポート合わせを行うことも許される。 インタークーラーホースの変更は許される。 	変更ならびに改造は許されない。
燃料ポンプ	自由	安全燃料タンクおよびコレクタータンクを装着した場合に限り、燃料ポンプを変更することが認められ、元のポンプを取り除くことが許される。	←クローズドクラスに同じ
安全燃料タンク	安全燃料タンクの装着が許される。これに伴う燃料配管の変更は許される。但し安全タンクを装着した場合には、純正タンクは取り外すか、不使用としなければならない(外さない場合、燃料配管を確認する)。詳しくは安全規定を参照のこと。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
排気系統	<ul style="list-style-type: none"> 排気系統は材質を含み自由。 ただしスパ西浦モーターパークの排気音量基準(走行時最大95dB)を満たすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 排気マニホールドは当初の部品と同一な純正部品との交換が許される。 ただしポート内面に段付き修正を行なう場合、取付面より5mm奥行の範囲に限りシリンダーヘッド側を含み加工が許される。 排気マニホールドは断熱措置を施すことが許されるが、確認作業のために全面を覆うことは出来ない。 排気マニホールド後方(ターボ付きの場合はターボの後方)の部分は、スチール又はステンレス製であれば自由とする。 スパ西浦モーターパークの排気音量基準(走行時最大95dB)を満たすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 排気マニホールドならびに触媒は、当初の部品と同一な純正部品との交換が許される。 触媒以降の部分は、スチール又はステンレス製であれば自由とする。 スパ西浦モーターパークの排気音量基準(走行時最大95dB)を満たすこと。
排気口	<ul style="list-style-type: none"> 排気口の位置は自由とするが、車体の側面、又は後面より突き出してはならない。 ※ただし排気音量対策のためサイレンサーを追加装着した場合はこの限りではない。 	<ul style="list-style-type: none"> その車両が側方排気である場合を除き、後方排気でなければならない。 排気口の位置は車体の後面より突き出してはならない。 ※ただし排気音量対策のためサイレンサーを追加装着した場合はこの限りではない。 	←クローズドクラスに同じ
ターボおよびアクチュエーター	変更、改造、およびNA車への追加装着は自由とする。	変更および改造は許されない。NA車への追加装着は許されない。	該当なし
ブーストコントロー	装着は許される。	装着は許されない。	該当なし

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

ラー	ブースト圧の変更は自由。	ブースト圧は当初のままでなければならない。	
電気系統	<ul style="list-style-type: none"> 点火系統は自由 バッテリーは取付位置、ブラケット、取付ボルトの変更を含み自由。 室内にドライ以外のバッテリーを搭載する場合は安全規定に従うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 点火装置は装着ブラケットを含み、改造が許される。デストリビューター方式を同時点火方式(マルチコイル方式等)に変更することは許される。 プラグの変更は自由。 バッテリーの変更は自由。ただし取付位置の変更は許されない。取付ブラケット・ボルトの変更は自由。 	<ul style="list-style-type: none"> プラグの変更は自由 バッテリーの変更は自由。ただし取付位置の変更は許されない。取付ブラケット・ボルトの変更は自由。
マウント方法	自由。	マウントを強化ゴムタイプに変更することができ、また一部を強化の為に金属製の材質に変更することができるが、全てを金属にしてはならず、その比率は最小限であること。	マウントを強化ゴムタイプに変更したり、スグリの部分にゴムを注入する補強は許される。但し金属を含むものを使用したり、材質を変更してはならない。

2) シャシー関係

	【オープンクラス】 OP	【クローズドクラス】 NC、TC	【ノーマルクラス】 NN
最低重量	特に規定しない	<p>「別表2」に記載の値とする。</p> <p>この重量は出走可能な状態で全ての潤滑油、冷却水を満たし、車載消火器を搭載した上で、燃料を満タンにして、ドライバーを除く車両の重量である。</p> <p>再車検で重量測定を指示された場合は、各チームで燃料を満タンにしなければならない。</p> <p>「別表2」に記載のない車種でエントリーする場合は、車両重量のわかる車両カタログのコピーを、参加申込書と同時に事務局まで送ること。(個別に最低重量を決定する)</p>	<p>「別表2」に記載の値とする。</p> <p>この重量は出走可能な状態で全ての潤滑油、冷却水を満たし、車載消火器を搭載した上で、燃料を満タンにして、ドライバーを除く車両の重量である。</p> <p>再車検で重量測定を指示された場合は、各チームで燃料を満タンにしなければならない。</p> <p>「別表2」に記載のない車種でエントリーする場合は、車両重量のわかる車両カタログのコピーを、参加申込書と同時に事務局まで送ること。(個別に最低重量を決定する)</p>
ホワイトボディ	市販の軽自動車のボディであれば、特に規定しない	市販の軽自動車のボディであること。ボディを交換する場合、同一車両型式のボディを使用すること。	市販の軽自動車のボディであること。ボディの交換は原則として禁止する。ただし転倒やクラッシュなどで交換を余儀なくされた場合は、同一車両型式のボディに限り交換が許される。この場合、ホワイトボディ以外の全てのパーツは、交換を許されている物を除いて、全て元の車両の物を使用すること。 (例:元がNAエンジンの車両を、同一車両型式のターボエンジン車のボディに箱替える場合、ホワイトボディ以外の部品は、交換を許されている物を除いて、全て元のNAエンジン車の物を使用すること)
バラスト(ウエイト)	バラストの搭載は自由。バラストは十分な強度を有する単一構造体で、工具によって、車室または荷物室の床に目に見えるように取り付けられること。	バラストによって最低重量を満たすことが許される。ただしバラストは十分な強度を有する単一構造体で、工具によって、車室または荷物室の床に目に見えるように取り付けられ、封印出来る構造でなければならない。	←クローズドクラスと同じ

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

		上記条件を満たせば、1個のスペアホイールまたはリムをパラストとして使用してもよいが、当初の搭載位置に当初の取り付け方法で搭載しなければならない。	
クラッチ	自由。	取り付け方法、および枚数の変更を行わなければ、クラッチカバー、クラッチディスク、クラッチスプリングの変更は許される。	←クローズドクラスに同じ
トランスミッション、ディファレンシャル、ファイナルギヤ	自由。	ファイナルギヤの変更は自由。 その他部品については、同一型式車両に設定されている純正部品への変更は許される。(同一型式車両であれば別グレードの物(NA車にターボの物や、2WD車に4WD車の物)を流用することが許される) シフトレバーはボルトオンで装着出来るものに限り変更が許される。 リミテッドスリップデフは装着が許される。リミテッドスリップデフの装着により周辺の改造が必要な場合は最小限に抑えること。	新車時にその車両に搭載されているトランスミッション・ディファレンシャル・ファイナルギヤから変更することは許されない。(同一型式車両でも、NA車にターボの物や、2WD車に4WD車の物を流用することは全て禁止される) シフトレバーはボルトオンで装着出来るものに限り変更が許される。
オイルクーラー(ミッション、デフ)	取り付けは自由。 ただし車体外部への取り付けは認められない。	空冷式オイルクーラーおよび電動オイルポンプを取付けることができる。ただし車体外部への取り付けは認められない。	←クローズドクラスに同じ
タイヤ	一般ラジアルタイヤに限る(スリック、Sタイヤ(別表2参照)は禁止) サイズは自由。 ただしタイヤは車軸中心より前方30°、後方50°の範囲内でフェンダーからはみ出さないこと。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ホイール	サイズ含め自由。ただしホイールは車軸中心より前方30°、後方50°の範囲内でフェンダーからはみ出さないこと。 スペーサーは使用しないことを強く推奨する。ホイールナットは自由。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ストラットおよびショックアブソーバー	自由	車体への取り付け位置と取り付け方法、数および作動原理を変えなければ、ストラットおよびショックアブソーバーの変更は許される。	←クローズドクラスに同じ
ラテラルロッド	自由	車体へ取り付け方法が同じであれば変更、改造が許される。全長調整式は可能。両端のマウント部の材質は金属以外であること。また 取付位置は、部品に伴って変更することができる。	←クローズドクラスに同じ
サスペンションの要素(アーム、リンク、等)	当初の形式を保つなら変更、改造は自由。 当初の形式とは「ストラット方式」、「ウイッシュボーン方式」、トレーリングアーム方式、「スウィングアクスル方式」、「リジッドアクスル方式」の5つをいう。	当初の形式を保っている事(左欄参照)。またボルトオンで装着できるタイプの部品のみ、追加装着可能。ラテラルロッドについては調整式を装着することができるが、ロアアーム側の取付位置の変更は部品に伴って変更することができる。	変更、改造、追加は一切許されない。(取付位置を変更するようなブラケットの取付けも許されない) 【使用が許されないパーツの例】 例1)トラクションブラケット(トレーリングアームの取付位置を変更するブラケット)の取り付け 例2)元々鋳物のロアアームを他車種のプレス品のロアアームに交換する

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

ストラットタワーバー	自由。	ボルトを利用して取り付けることが許される。 当初から装着されている車両は、ボルトを利用して取り付けるものであれば変更することが許される。	例③)他車種の(長さが違う)アームに交換する ←クローズドクラスに同じ
スプリング	自由。 ただし主要な形式は変更してはならない。 補助スプリングの追加は許される。	車体への取り付け位置、取り付け方法、作動原理を変えなければ、変更は許される。 車高調整式への変更に伴う補助スプリングの追加、スプリングシートの変更、および挿入物の追加も許される。	←クローズドクラスに同じ
スタビライザー	自由。	スタビライザーは径の変更が許される。 また、連結を含みその取り外しも許される。ただし、可変式スタビライザーへの変更は認められない。 スタビライザーが当初から取付けられていない車両については、ボルトオンで装着ができる物に限り、取り付けが許される。 金属以外の材質に変更することが許される。 スタビライザーの径の変更に伴うブッシュ内径の変更は許される。	←クローズドクラスに同じ
ラバーマウントおよびブッシュ類	自由。	形状および寸法を変えなければ、金属への変更を除き、材質および硬度の変更が許される。 また、スグリタイプのをソリッドタイプに変更することが許される。 サスペンションアッパーマウントに限り、ピロボールの使用が許される。	←クローズドクラスに同じ
ブレーキ	自由。	ブレーキシュー、ライニングパッド、ブレーキホース、ブレーキローター、キャリパー、ブレーキドラムの交換変更は許される。ただしドラム方式のものをキャリパー方式に変更(またはその逆)することは許されない。 冷却ダクトの装着は許される。 ABSとの接続を外すこと、およびABS装置を取り外すことも許される。	←クローズドクラスに同じ
ステアリングホイールおよびステアリング	自由	ステアリングシャフトの変更または改造を行うことなく取り付けられる、ステアリングホイールとボスは自由。 クイックリリースシステムの装着も自由。 ステアリングホイールの上下位置の調整は許される。 パワーステアリングのポンプと配管の接続を外すこと、およびそれらを取り外すことは許される。	←クローズドクラスに同じ
アクスル ペダル類	スピンドルを含み自由。 安全性、操作性を向上させる目的でペダルパッドを変更することは許される。 ペダル剛性向上のため、マスターシリンダーまたはマスターバックに対してストッパーを装着することが認められる。	車両と同一メーカーの純正部品への変更は許される。 ←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ ←クローズドクラスに同じ

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

ドライブシャフト	ブーツの材質を変更することが認められる。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスと同じ
----------	----------------------	-------------	--------------

3) 車体関係

	【オープンクラス】 OP	【クローズドクラス】 NC、TC	【ノーマルクラス】 NN
バンパー	バンパーは自由。 またバンパーの幅は拡幅が許されるが、フェンダーと滑らかに接続すること。	バンパーは自由。 ただし幅は全幅を超えないこと。	←クローズドクラスと同じ
ボンネット、トランク、ハッチバック	ボンネット、トランクリッド、ハッチバックは、合成樹脂、または軽金属製への交換が許される。 ただしこれらの部分は十分な強度を満足し、走行中に開かないようにすること。 エンジナーリングのため、ナカダクトおよびルーバーを設置することが出来る。	ボンネットに限り、合成樹脂、または軽金属製への交換が許される。ただしリヤエンジン車両は、エンジンフードも合成樹脂、または軽金属製への交換が許される。 ただしこれらの部分は十分な強度を満足し、走行中に開かないようにすること。 エンジナーリングのため、ナカダクトおよびルーバーを設置することが出来る。	←クローズドクラスと同じ
前部空力装置	前部空力装置は自由。 前部空力装置をバンパーと一体に成形することができる。 アンダーパネルは自由。	前部空力装置は自由。 前部空力装置をバンパーと一体に成形することができる。 前車軸の中心より前方のアンダーパネルは自由。	←クローズドクラスと同じ
フェンダー	オーバーフェンダーの装着および叩き出しによる拡幅は許される。	オーバーフェンダーの装着および叩き出しによる拡幅は許されない。 フェンダーの爪折りおよびインナーフェンダーの取り外しは許される。 片側1cm厚以内のモールの取り付けは許される。	←クローズドクラスと同じ
サイドスカート	サイドスカートは車体から遊離した形状でなければ取付けることができる。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスと同じ
後部空力装置	車両の全長、全高、全幅を超えなければ装着は自由。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスと同じ
外部ミラー	外部の後方視界用ミラーは車両の両側に有効に取り付けられていなければならない。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスと同じ
室内冷却用ダクト	ドライバーおよび車内補機類を冷却するためのダクトを設置してもよい。 これに伴う外観形状の変更は許される。	ドライバーおよび車内補機類を冷却するためのダクトを設置してもよい。 ただし外観形状の変更を伴うものは許されない。 フレキシブルダクトをピラー等に簡易的に固定することなどは、外観形状の変更とはみなされない。	←クローズドクラスと同じ
フロントガラス	フロントガラスは合わせガラスを常に備えていなければならない。 上端から15cmの幅で幻惑防止措置を施すことが許される。 ガラスの表面の保護のため無色透明なフィルムの貼り付けが許される。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスと同じ
窓ガラス	ドアウインドウ、サイドウインドウ、およびリヤウイン	変更は許されない。	←クローズドクラスと同じ

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

	<p>ドウを無色透明な他の材質のものに変更することが許される。(厚さは問わない。) ただし取り付け位置の変更は許されない。 取り付け部をタッピング、ビス等で補強することが推奨される。 ガラスの表面の保護のため無色透明なフィルムの貼り付けが許される。 また、取り外しは認められない(装着の義務付け)</p>	<p>サイドウィンドウに対し、無色透明なフィルム等で飛散防止対策を施すことを推奨する。また、取り外しは認められない(装着の義務付け)</p>	
ドア	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアは合成樹脂製への交換が許されるが、交換した場合はロールケージのドアバーの装着が義務付けられる。 ・サイドドアビームを取り外すことは許されるが、外した場合はロールケージのドアバーの装着が義務付けられる。 ・防音材を取り外すことは許される。ただし取り外すことにより、ドアの形状に変更をもたらすものであってはならない。 ・ウェザーストリップ等の保護材を取り除くことができる ・ドア内部に衝撃吸収のための難燃性の衝撃吸収材を充填することが許される。 ・電気式巻上げ装置を手動式巻上げ装置に取り替えることが許され、取り付けのための最小限の改造は認められる。 ・ドアの内装(トリム)は取り外すことは許されないが、ドアバーの装着に伴う内装の切除は認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアの変更は許されない。 ・防音材を取り外すことは許される。ただし取り外すことにより、ドアの形状に変更をもたらすものであってはならない。 ・ウェザーストリップ等の保護材を取り除くことができる。また、ボルトオンであってもサイドドアビームは取り外してはならない。 ・ドア内部に衝撃吸収のための難燃性の衝撃吸収材を充填することが許される。 ・電気式巻上げ装置を手動式巻上げ装置に取り替えることが許され、取り付けのための最小限の改造は認められる。 ・ドアの内装(トリム)は取り外すことは許されないが、ドアバーの装着に伴う内装の切除は認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアの変更は許されない。 ・防音材を取り外すことは許される。ただし取り外すことにより、ドアの形状に変更をもたらすものであってはならない。 ・ウェザーストリップ等の保護材を取り除くことは許されない。また、ボルトオンであってもサイドドアビームは取り外してはならない。 ・ドア内部に衝撃吸収のための難燃性の衝撃吸収材を充填することが許される。 ・電気式巻上げ装置を手動式巻上げ装置に取り替えることが許され、取り付けのための最小限の改造は認められる。 ・ドアの内装(トリム)は取り外すことは許されないが、ドアバーの装着に伴う内装の切除は認められる。
ルーフ	<p>オープンカーについては、純正のルーフを樹脂製に変更することが許される。</p>	<p>←オープンクラスに同じ</p>	<p>←クローズドクラスに同じ</p>
シート	<p>ドライビングポジションを改善する目的で運転席を交換してもよい。 座席を交換する場合、シートレールの強度は当初のものと同様以上でなければならず、車体側の取り付け部の変更は許されない。 運転席以外のシートは取り外すことが認められる。</p>	<p>←オープンクラスに同じ</p>	<p>後部座席の取り外しは認められる。運転席、助手席は交換は許されるが、装着されていなければならない、かつ実際に人が乗車した際に使用に耐え得るもの、装着方法でなくてはならない。</p>
ダッシュボード	<p>変更および交換は許されるが、取り外しは許されない。</p>	<p>当初のものを使用しなければならない。 ダッシュボードにボルトオンの付属品(オーディオ、トリム、グローブボックス等)の取り外しは許される。 ロールバー等の部品取付けのために切除加工することは許されるが、それ以外の目的での切除加工は許されない。</p>	<p>←クローズドクラスに同じ</p>
内装	<p>運転席、助手席のドアの内張りを除き、取り外すことは許される。但しナンバー付き車両は乗車定員が座るシート横の内張りがあること。</p>	<p>運転席、助手席のドアの内張り、及び車体のドア開口部のプロテクターを除き、取り外すことは許される。但しナンバー付き車両は乗車定員が座るシート横の内張りがあること。</p>	<p>←クローズドクラスに同じ</p>

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

	ロールケージの取り付けに伴う内装の切除は認められるが、最小限にとどめること。 フロアカーペットは取り外すことを推奨する。ステアリング下のコラム周辺の内装は、装着した状態か、外した場合には保護の為に何等かのカバーを取り付けること。	ロールケージの取り付けに伴う内装の切除は認められるが、最小限にとどめること。 フロアカーペットは取り外すことを推奨する。ステアリング下のコラム周辺の内装は、装着した状態か、外した場合には保護の為に何等かのカバーを取り付けること。	
エアコン、ヒーター	取り外しは自由。	←オープンクラスに同じ 注) 東北NA660選手権レギュレーションでは「エアコンおよびヒーターの取り外しは認められず、いかなる場合でも正常に作動しなければならない」となっているので、東北NA660選手権レギュレーションで作った車両で参戦する場合は注意すること。	←クローズドクラスに同じ 注) 東北NA660選手権レギュレーションでは「エアコンおよびヒーターの取り外しは認められず、いかなる場合でも正常に作動しなければならない」となっているので、東北NA660選手権レギュレーションで作った車両で参戦する場合は注意すること。
ライト	前照灯、尾灯、制動灯、バック灯、方向指示器は正常に作動しなければならない。 ガラス製のライト類は無色透明のガラス飛散防止策を必ず実施すること。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
追加メーター、ラップチェッカー、データロガー	装着は自由。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
補強バー類	溶接での装着を含め自由。	ボルトオンでの装着に限り自由。	←クローズドクラスに同じ
障害者用操作装置	障害者用操作装置を装着することができる。 ただし装着車両のゼッケンは、大会規則のゼッケンの項目に記載されているものを使用すること。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ

■別表1 (Sタイヤと見なされる(使用禁止の)タイヤ)

NA車で「東北660選手権レギュレーション」を適用して参加する車両も、タイヤは当シリーズのレギュレーションに従うこと。

つまり、東北660選手権3クラスに相当する車両でも、ハイグリップラジアルタイヤ(例:POTENZA RE-71Rや、NEOVA AD08R 等)を使用することが出来る。また、東北660選手権1、2、4クラスに相当する車両でも、ATR K SPORTは使用禁止となる。

メーカー	銘柄
ブリヂストン(POTENZA)	RE520S、RE540S、RE55S、RE11S RE-11A 2.0 RE-12D、RE-05D、RE-07D
ヨコハマゴム(ADVAN)	A021、A032、A038、A039、A048、A049、A050、A052、A08B
ダンロップ(FORMULA-R、DIREZZA)	D93J、D94R、D98J、D01J、02G、03G、RSV98、β 02、β 04

メーカー	銘柄
ハンコック	Z221、Z205、Z209、Z210
フェデラル	595RS-RR
ATR	K SPORT

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

トーヨータイヤ (PROXES)	FM9R、08R、R881、R888、R888R
GOOD YEAR	Sタイヤ該当無し
クムホ	V710

ナンカン	AR-1
ネクセン	Sタイヤ該当無し
ゼスティノ	Sタイヤ該当無し

※上記タイヤ以外でも主催者が判断した場合は使用禁止となる。

※新発売のタイヤで判断が付かない場合は、必ず主催者まで問合せること。

『2019 K耐部門』車両規則 Ver.1

■別表2 車種ごとの最低重量一覧表(ガソリン満タン時)

※下記に無い車種でエントリーする場合は、車両重量のわかる車両カタログのコピーを、申込書と同時に事務局まで送ること。

※基本的な最低重量の算出方法・・・その車両型式の、そのエンジンを搭載したカタログモデルの中で、一番軽いグレードの車両重量を基準値として、ノーマルクラスは「基準値+20Kg」(←ガソリン込みのため一律+20Kg)、クローズドクラスは「基準値-30Kg」とする(ビートは特例)。

NA車で「東北660選手権レギュレーション」に合致した車両で参加する場合は、最低重量は規定しない。(=重量は自由)

下表よりも軽いグレードが存在する場合は、事務局までカタログコピー等を送り最低重量の変更申請をすること。

※前戦で1位となり、ハンディウエイトを搭載して出走する車両は、ハンディウエイトを積まない状態で最低重量を満たさなければならない。

車名	型式	クローズドクラスの最低重量	ノーマルクラスの最低重量	備考
トゥデイ	JA2	590Kg	640Kg	
〃 (MTREC車)	JA4	650Kg	700Kg	
〃 (MTREC車以外)	JA4	620Kg	670Kg	
ビート	PP1	700Kg	750Kg	特例
アルトワークス	CN21S	600Kg	650Kg	DOHC、SOHC とも
〃	HA21S	620Kg	670Kg	DOHC、SOHC とも
〃	HA22S	640kg	690Kg	
〃	HA36S	640Kg	690Kg	
アルトターボRS	HA36S	640Kg	690Kg	
アルトバン	HA23V	600Kg	650Kg	
〃	HA12V	600Kg	650Kg	
〃	HA36V	580kg	630kg	
アルト	HA22S	600Kg	650Kg	
〃	HA36S	580kg	630kg	NA、RS は別欄参照
セルボモード	CN21S	620Kg	670Kg	
〃	CN22S	620Kg	670Kg	
〃	CN31S	640Kg	690Kg	

車名	型式	クローズドクラスの最低重量	ノーマルクラスの最低重量	備考
カプチーノ	EA11R	670Kg	720Kg	
〃	EA21R	660Kg	710Kg	
ミラ	L200S	650Kg	700Kg	
〃 (NA)	L700S	670Kg	720Kg	ジーノ含む
〃 (ターボ)	L700S	700Kg	750Kg	ジーノ含む
ミラバン	L700V	640Kg	690Kg	
〃	L275V	680Kg	730kg	
エッセ	L235S	670Kg	720Kg	
コペン	L880V	800kg	850Kg	
ヴィヴィオ(DOHC SC)	KK3	680Kg	730Kg	
〃 (SOHC NA)	KK3	610Kg	660Kg	
プレオ	RV1	740Kg	790Kg	
ミニカ	H42V	650Kg	700Kg	